

東串良町複合施設建設検討委員会 会議録

【会議名】

第5回東串良町複合施設建設検討委員会記録

【日 時】

2024年4月26日（金）13時30分～

【会 場】

東串良町役場 防災庁舎2階 対策本部室

【出席者】

・委員（15名）

柴田委員長、末村委員、村山委員、新福委員、甫村委員、野口委員、若松委員、重委員、中久保委員、宮野委員、吉田委員、立迫委員、丸山委員、尾方委員、上園委員

・町職員等（3名）

事務局（企画課）

・傍聴（8名）

【会次第】

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 協議・報告
- 4 閉会

【協議・報告】

- （1）前回委員会のふりかえり
- （2）新しい複合施設の立地候補地の優先順位について
- （3）その他

【会議結果要旨】

- ・立地場所について投票の結果、①役場周辺が7点、②体育館周辺が27点、③国道ダイナム近くが2点、④国道セブンイレブン近くが9点となった。
- ・立地場所を国道沿いにする場合、今後複合施設だけではなく、体育館等その他施設も集約整備していき、将来の東串良の中心としていくことも考えて検討すべきではないか。
- ・立地場所を体育館周辺にする場合、候補地と東側の町有地を合わせて一つの敷地とし、グラウンドゴルフ等の面積を確保する配置計画を検討してはどうか。
- ・住民ワークショップにおいて、子どもたちの意見を吸い上げることは非常に重要である。

【会議経過】

(1) 前回委員会のふりかえり

意見なし

(2) 新しい複合施設の立地候補地の優先順位について

(事務局)

今日の午前中には庁内検討委員会があり、各委員の方々の考えを聞いた。主だった内容を紹介する。

そもそも、総合センターと福祉施設の複合化というコンセプトから考えると、文化的な施設という部分が強くなる。体育館を利用するのは運動を目的とした子どもたちが多いが、体育館を立地場所としたとき、複合施設との相乗的な効果が本当に見込めるのかという意見があった。

また、アンケートの結果が賑わいを期待する施設という事であれば、外との繋がりも考えると国道がいいのではないかという意見もあった。

町外から人が来る際に説明がしにくいというのも、体育館の方にはあった。

役場周辺エリアの中学校近くだと中学生が一体的な利用ができる、という内容で資料を作っているが、中学校の方にも施設はあるので、それをうまく活用することで事足りる部分もあるのではないかな。また、町内には高校がないので、中学生が高校に上がると鹿屋や志布志の高校にバスなどを使って行くことになる。そこから帰ってきたとき、国道沿いのバス停で降りて、そこに複合施設があれば、学習室で勉強して帰るということもできるのではないかという意見があった。

また、公共施設を集約するということであれば、県内でもこのような文化的な施設と運動できる体育施設が集約化されて立地している施設もある。公共施設の集約化という観点でいけば、体育館の近くでもいいのではないかという意見もある。

町外から来る方への説明は確かに難しい部分もあるが、公共施設の集約化、町民の利用というところに重きを置くのであれば、中心的な位置にあってよい。高齢者もグラウンドなどを活用しており、今後もし建てるのであれば代替地を設けなければならなくなると思うが、この複合施設には福祉的な機能も持たせるとなっているので、高齢者の利用としてもいいという意見もある。

アンケートの内容でも、1番は体育館の方が多かったということから、土地交渉の面でもいいのではないかな。

これらの意見をこの後の協議の参考にして欲しい。

(委員)

体育館周辺の土地について、専門的な知識が無いので質問したい。芝生があり、芝生の後方に代替地を用意するという話だったが、そもそも今芝生があるので、後方の土地を候補に

できないのか。

(事務局)

複合施設の候補地としては、できるだけ大きな道路に面した方がよい。この周辺でいけば、体育館前の道路が一番大きな道路なので、それに面した形で考えている。入っていくまでのところも考えると大きな道路に面して、かつイベント等もすることになるとこちらにも駐車場があるので、一体的な利用がしやすいと考えていることから、今の位置を候補地としている。なお、後ろ（候補地東側）の町有地の面積は 7,000 m²ほどになる。候補地は 13,000 m²ほどである。

(委員)

午前の庁内会議では、候補③④について意見はでなかったのか。

(事務局)

高校生の利用に関する点、賑わいという観点でアクセスしやすいという点など、国道沿いについてご報告した内容になる。

(委員)

東串良に災害が起きた際に、①から④の候補の中で一番生き残る場所という観点での意見は出なかったのか。

(事務局)

町内には 15 か所の避難所があり、5,500 人を収容できる防災計画となっている。新しい複合施設は、一時避難場所に逃げ、落ち着いた後、家屋損壊など長期避難が必要な際に使う、発電施設等がある場所とすることになる。候補地になった①②③④については防災マップにもあるが、河川の氾濫、地震についても高台にあり災害リスクが低いところを挙げており、特に意見は出なかった。

(委員)

体育館周辺の芝生の奥の場所がいいのでは、という質問と被る。その奥の場所は 7,000 m²で少し足りないということだが、手前の芝生を壊してまで、というのはもったいない気もする。芝生の後ろの場所を活用できるのであれば、見栄えもいいと思う。足りないのであれば、左側の土地を交渉するなど必要であると思うが、それは考えられないか。

(事務局)

候補地②の芝生については、現在グラウンドゴルフ、少年団のサッカーなどで利用されている。建設予定の延床面積については 2,500 m²～3,000 m²と予定している。これは福祉センター、総合センターを集約化した数字を基にしている。芝生については 12,000 m²ほどあるが、このうち 3,000 m²程度を敷地とする。施設だけではなく、その他の緑地帯も設けて公園機能にすることを考慮し、すべての芝生を外してコンクリートにするのではなく、イベント広場等になり、グラウンドゴルフも競技ができる形で、極力芝生を残す形での計画も想定している。現在、町民運動会等の駐車場に使っている敷地については、面積 7,000 m²ほどで建物は建てられるが、隣接する駐車場がなければ徒歩の距離が長くなり、歩道の拡幅も必要になっ

てくるため、現状は接道が一番近い地点で計画している。

(委員長)

グラウンドゴルフの場所も含めて、敷地として駐車場や公園機能と同様に、グラウンドゴルフの場所を計画させるというのはだめなのか。

(事務局)

事前にグラウンドゴルフ協会に質問したところ、競技にはコースが4面必要ということであった。現在は隣の運動場の芝生を使った大会ができる形となっているが、この場所に決まった場合、あらためてグラウンドゴルフ協会と協議し、通常の練習やミニゲーム等に使用できるように詳細を決定する。また、少年団のサッカーについても、建設の配置について詳細を打合せし、完全に撤去するのではなく各団体と協議しながら配置を決定する。

(委員長)

質問の意図と回答内容が異なる。今赤で囲われている敷地と北側の代替地としている敷地を合わせて一つの敷地として、グラウンドゴルフの面積を確保するのはどうか。どのみち工事は発生するので、合わせて一つのプロジェクトとしてやってしまうことはできないか。

間に道路があるので難しいかもしれないが、道路を挟んだ二つの敷地でそれぞれ考えてもらうのはどうか。

(事務局)

隣の敷地との間に農道が走っており、一体的に通路等を作って計画というのは難しいと思うが、設計の段階で併用できるかどうか、今後検討したい。現在は赤で囲った部分を候補地として、複合施設の建設を予定している。

(委員長)

可能性はあるが、現状は今の候補地で考えてもらうということか。

(委員)

グラウンドゴルフ協会の立場としては、今の芝生については満足できる状態ではない。今の位置でやるとしても将来的には改良してほしい。現状は我慢しながらやっている状態。仮にここに複合施設が整備され、代替地がその裏になるとして、グラウンドゴルフはできる状態にはなる。面積的には狭くなるが、両方使いながらという考え方は持ち合わせたい。

(委員)

東串良町の役場が建設される際、意見が大きく二つに分かれ、元々の場所がよいか、案内しにくいということで国道220号がよいかという二つの案があった。今体育館周辺が話題になっている。今の時代が違うのかもしれないが、役場が建設された時には、③の場所と相当比較されて建設された記憶がある。今ここか、体育館周辺かしか話にならないような気がする。東串良町役場のある場所について、町民アンケートでは、ここがいいというのは14.9%であった。それだけ、東串良町民からはこの場所は愛されていないということになるか。それともアンケートのしかたが悪かったのか。今意見を周りから聞いてきたら、慣れ親しんだ町民の中から、今の役場の周辺に作ればという意見がある。これができるときには、国道と

この場所と、2 点を中心として論議されているが、今は体育館ができたから変わってきたのか。話を聞いた限りでは、慣れ親しんだ今ある場所もいいのではないかということであった。
(事務局)

参考として、町民のアンケート結果を改めて説明する。一番多かったのは総合体育館の周辺で 39.9%、国道 220 号沿いが 2 番目で 19.2%、3 番目が役場の周辺で 13.8%、現在の総合センター周辺が 11.6%、高齢者福祉センターの場所及びその周辺が 4.2%、その他の方が 1.7%、無回答が 9.6%である。

庁舎建設の際にも場所の問題があり、現在の場所と国道沿いで議論し、最終的には元々役場があった場所になった。町民アンケートでは総合体育館周辺、町職員アンケートでは国道 220 号周辺がよいという意見が多かった。

場所についてはそれぞれのメリットがあり、色々な考え方があると思う。委員それぞれの考えもあると思うので、多角的にご判断いただきたい。

(委員)

アンケートの時点では町の中心地ということで体育館周辺に○を付けたが、今考えてみると、国道 220 号周辺は商業施設も充実していて、町民のほとんどが 220 号沿いの商業施設を利用しているということで、生活圏の中心としては 220 号周辺が一番にぎわっているのではないと思う。候補④のセブンイレブン周辺が、複合施設が建った場合に町が今から発展していくイメージが一番しやすい。このように、アンケートの時から考えが変わっている。

(委員)

検討委員会は複合施設を検討する会議で、施設は総合センターと高齢者福祉センターの代わりだと思う。私は賛成派だが、反対意見が出ているなかで、税金の大きな金額を使うので、複合施設の建設を考えるだけで良いのかと思う。体育館周辺の候補地の話についても、PTA の行事で聞いた話では、体育館は控室などあまり利用したくない、町外の方を招くにはあまり良くないとのことであった。体育館もあの状態ではいけないと考えており、複合施設が 220 号周辺になる場合に、そこを東串良の中心にしたいのであれば、複合施設だけではなく、将来的にその周辺に体育館などその他の施設を整備するということも考えて、検討委員会の話を進めていくべきではないかと思った。東串良町の将来を考えた時に、複合施設単体ではなく、10 年後にはどんな施設が必要になるかまで考えて検討するべきだと思う。

(委員)

今日までの色々な議論の中で、複合施設の位置づけは理解している。これまでの協議を振り返り、今日提示されている資料を見ると、この土地の選定理由は、拠点性や既存施設との関係性ということである。

町民、町職員アンケートの結果などの資料を見て、午前の庁内会議の意見を聞くと、それと全く一致することもある。この町の地域性を見た時に、今度の拠点施設となるところがどこにあるかで全く違ってくると思う。既存の公共施設との繋ぎが一番大事な所だと思う。そ

れに安全・安心なども考えると、体育館周辺ということで考えている。

(委員)

自分は体育館周辺が良いと思う。総合センターと高齢者福祉センターそれぞれに目的というものがある。それに加えて、住民が集う場、賑わい溢れる場というものがある。今バスで通っている高校生はどれくらいいるのかと思う。彼らが行きたい、勉強したい場と考えたときに、経済的な面もあると思う。十分な広さがあって、グラウンドゴルフをする方がその近くでできて、お茶を飲む場があって、と考えると、気分的にも一体になると思う。それらを考えると体育館周辺がよいのではないかと思う。

(委員)

みなさんがそれぞれの意見を挙げてくださっているので、資料から自分なりの答えを考えると、体育館周辺だと思っていた。本日の午前の会議の結果等を聞いて、新しい資料を見て、改めて体育館が良いという結論になった。その基準は、そもそも、スタートは何だったかということである。文化というものを考えると、例えば国道周辺になると、一極集中型はどうなのかと考えている。鹿児島県で一番小さな東串良町を最大限活かした時に、スペース的な所で、あれもこれもたくさん周りにあるからできないよね、ということではなく、今こうだからきつこうなるといふ今の延長線上の考え方よりも、外側に視点を置いて考えていく必要がある。私の中では接道条件と地盤というところがポイントになっている。柏原地区の皆さんも町の中心となって体育館周辺に集うというような視点から、一極集中には思いうところもあり、皆さんの意見を聞き、体育館周辺がいいという結論になった。

(委員)

先ほど東串良町役場の話をしたが、地域の人たちに話を聞くと、ぜひ意見を言ってくれというのがあった。昔を遡ってみたら喧々諤々でここができた、あるいは国道の云々という話もあったが、そういう意見はあったとしても、私自身の考えとしては体育館の周辺に作る事が適当であると考えている。

先ほど皮肉めいたことを話したのは、地域の人たちから若干そういう声があり、一言言ってくれと頼まれていたからである。私自身は反対をしていたわけではない。

(委員長)

午前中にすべての立地候補地へ行き、賑わい等も考え、国道周辺は立地的にアドバンテージがあるなど感じたところである。

候補地①の町役場周辺のアドバンテージである中学校が近くにあることについては、体育館も距離はそこまで変わらないかと思ったところである。①のアドバンテージとして捉えられている中学校との連携は、②でもそんなに変わらないと思う。小学生であれば近い方がいいが、中学生であれば苦にならない距離である。

②の総合体育館横については、グラウンドとの間に擁壁があるため、連携が取れていない感じがある。施設を右側に置くのであれば、高低差を解消しグラウンドと一体利用できる提案などを考えられると、元々の体育館利用としてのポテンシャルを上げる事にも寄与でき

るかと思う。また、災害時の自家発電設備が体育館にないということで、実際には消防の発電車両などが来て賄う予定だと聞いているが、コスト的に可能であれば今回の施設で発電機を設けると思うので、それを災害時にも利用できるようにすると、求められている機能にプラスできる、ポテンシャルを上げられるというのはある。

③の候補地については、国道から距離があるということ、パチンコ店が近くにあり、良い関係性が作れるか疑問があること、アクセスする道路の幅員を確保するとクランクができることなどがあり、デメリットが多いと思った。

④の方が面積も確保でき、国道に隣接しているので、国道沿いにするならこちらではないかと思う。こちらのデメリットとしては、国道沿いで地価も高いのでコスト的な負担が高いというところである。

私としては②か④が候補地としての順位が高く、②なら文化とスポーツの一体的な拠点として町の振興を図り皆が集まる場所を作っていくというテーマになり、④なら商業的なメリットを生かして、ということになると思う。④の敷地を見た時に、国道沿いは住宅が建つと入居者が割と埋まるということも聞いた。そのように民間で活用できる場所なのであれば、優先して公共が使わずとも民間に任せてもよく、そういう意味では②の方が良いのかとも思う。

(委員)

一極集中も問題があるかと思うが、候補地④になった場合に、近くに定住化促進の住宅があつたりして子どもたちがすごく多くて、図書館など学習スペースができた場合に日常的に使って利用者の増加が見込まれるのではないかと思った。候補地②になった場合、中学生・高校生は自転車やバイクで利用できるが、小学生はどうしても親の送迎のもとで使う形になるので、そうなると体育館のところにあっても、柏原校区の子たちは高学年にならないと自転車で来られない、低学年の子は親に送ってもらわないと利用できない。それであれば、候補地④でも柏原地区の子どもは親の手が必要になるので、子どもたちが集って活気あふれる施設にするためには、国道沿いも一つの選択肢かと思う。

(委員長)

それぞれご意見いただいた。体育館のところとしたいという考えの方が若干多いと思うが、投票という形を取って、第一候補、第二候補を挙げていただき、その結果を見て決定したい。

(委員)

であれば一つ確認したい。4枚目に GL なんとかというのが一番下にある。これはどういう意味か。

(事務局)

A3の資料の「GL-15m」のことか。これは「グランドライン」のことで、地面から-15mということになる。ここでは、15m まで掘っても N 値が 10 を超える層がないという意味である。これは周辺の今までの地盤調査の結果を参考にしたもので、この場所そのものがそ

うであるかは実際に掘ってみなければわからない。あくまで参考として受け取ってほしい。

(委員)

この検討委員会で優先順位を決めるという話だが、次の議題にある住民説明会の時に住民の方々と役場の方々が対面して、色々意見が出ると思う。その時にまた新しい意見が出ると思うので、住民の意見を我々が聞いてもう一度判断し、その時決をとった方が良いのではないかと思う。

(事務局)

今回は優先順位を決めてもらい、5月にそれを持って住民説明会を行い、町の検討委員会では今こういう順位であるという説明をするというのが現状の予定である。そのうえで、もし住民説明会で意見や反発があれば、その後の第6回で改めて候補地を決めていく。説明会の内容を全く反映しないということはない。

(委員)

候補地④について、南東側の区画が反対という感じになっているが、何か理由があつてのことか。

(事務局)

これについては、現状土地の所有者の回答を得られていないところなので抜いている。ここに決まる中で、もしここもやはり含めてほしいという話もあれば、また検討する。場所的には一体的な土地の作りが良いと思うので、配置をうまく調整すれば今の土地でも十分可能ではあるが、今後検討したい。

(事務局)

前に投票シートを置いている。一番候補地として相応しいと思う場所、二番目にいいと思う場所に○を付けてもらいたい。同じ列に○を付けてしまうと、一番と二番が同じになってしまっただけ集計できないので気をつけてほしい。

最終的な集計は、一番のところは2点、二番目は1点として合計点を算出する。

(3) その他

(事務局)

集計には時間を要するので、議題を進めさせてもらいたい。

「住民説明会の開催について」と、続けて「先進施設の視察について」を説明する。

(事務局)

資料3の住民説明会の開催について、日程については前回の会議で示したとおり、5月の17日から20日までの4日間を想定している。17日は高齢者福祉センターなので昼の時間帯にしているが、18、19、20は夜の7時から8時半までの夜の部も調整している。

説明の内容については、これまでの経緯、検討状況、本日協議の町の検討委員会における候補地の優先順位、今後のスケジュール等についてとなる。また、複合施設というと漠然としてイメージが湧かないという方もいると思うので、なるべく自分たちが視察したよ

うな写真等も示しながら説明する。また、施設によってはこの町には規模的に見合わないような大きな施設も視察しているので、そこで勘違いが生まれないよう注意して説明する。

今後のスケジュールとして、4月の下旬、この会以降に町のホームページにて住民説明会の周知をスタートさせる。5月10日の広報誌においても記事を掲載する。広報誌の配布が遅れた場合や、振興会の会外の方への周知も考慮し、早めに防災無線等でも周知できればと考えている。

住民説明会については以上である。引き続き、同じ資料の下の方にある、日帰りの先進地視察について説明する。

昨年11月に関西へ視察に行ったが、参加できなかった方もいたので、そういった方を考慮して今回は県内で日帰りという形で調整した。現状提出されている日程調整表を見ると、5月22日と5月29日が最も参加率が高くなりそうであるので、そこを候補日とする。なお、2か所の研修先のうち、薩摩川内市の「センノオト」については、来週29日にオープンであるので、現在の候補日を踏まえて先方との日程調整も行う。確定次第改めて周知する。

場所は指宿市の「市民会館」と薩摩川内市の「センノオト」となる。視察の内容については、施設の見学、案内を受け、施設建設の経緯、規模、機能、設備の選定、事業手法など色々聞けたらと思っている。

別紙に工程表を付けている。日程が決まっていないので現状の案ではあるが、距離があるので、バスを借り上げて7時半には出発したのち、フェリーに乗ってまずは指宿市の市民会館で午前中視察を約90分程度行う。指宿市内で昼食をとり、2時間ほどかけて薩摩川内市のセンノオトに移動し、また90分ほど視察ができればと思う。帰りもそこから役場まで2時間以上かかるので、帰りが遅くはなってしまうが、県内2か所でこのような工程を組んでいる。

(事務局)

視察先の資料も本日配布しているので、それを確認してもらいたい。

指宿市民会館は、以前、委託事業者から事例紹介として説明があったところである。延べ床面積は約3,000㎡、2022年5月に建てられた建物である。中身のメインはホールで、ホールと会議室を視察する。後ろの方にはリーフレットも参考に付けている。このように創作活動室、楽屋、会議室などがある。

センノオトについては、少し変わっていて、令和3年の4月1日に廃止となった、川内文化ホールという跡地利活用の事業として、薩摩川内市が九電と借地の契約を結んでいる。それが令和5年1月から令和34年1月までの29年間という形で、年額2,274円/㎡となっている。面積は約8,500㎡なので、年間2,000万円ほどの借地料で、九電が建てた建物になる。運営については九電がCCCという、佐賀県の図書館を運営している実績があるところに委託している。実際の運営は違うという、少し変わった取り組みをしている。

特徴としては、木造であること。整備費は借地料も含め、約25億8000万円かかってい

る。本館も別館もあり、賑わいの緑地スペースもあり、立体駐車場まで含めた形である。屋上には太陽光パネルがあり、建物の一次エネルギー消費量が0という形で活用されている。1階は多目的のスペースになっており、1万冊ほどの本が自由に読める空間になっている。スターバックスも入っており、コーヒーを飲みながら本を読めるということで、賑わいのあるスペースになっている。また、キッチンスペースや学習室もあり、別館にはキッズスペースということで、児童書が1,500冊ほど入っているところがある。本館の2階は九電の事務所になっている。このような形で、子育て世代を中心とした、親子3世代が集えるような場所になっているということで、今後の運営などについて話を聞きたいと思って提案させていただいた。

(事務局)

今の説明に質問、ご意見等あるか。

無いようなので、次の議題、住民ワークショップについて説明をお願いしたい。

(事務局)

住民ワークショップについては、6月後半から7月後半にかけて、計2回の開催を予定している。スケジュール的には少し先だが、先ほど優先順位を決めて説明会をし、場所を決定していくという流れで決まった後に開催することを想定してこのスケジュールとしている。現地を見ることなども含めてワークショップを企画できればと思う。

ワークショップの参加者の募集については、基本的には広く公募することを想定しているが、総合センター、高齢者福祉センターを利用している方もおり、また幅広く色々な世代の方に参加いただければという思いもあるため、東串良中学校には直接お話をし、生徒の方に参加いただけないかと声をかけることも考えている。様々な立場、世代の意見を聞く場としたい。

また、委員長の柴田先生の研究室の学生とも連携する。学生の目線でも色々なアイデアや意見があるので、そういったものも町民の皆さんには参考になるという部分もあり、刺激も受けられると思う。いろいろなものが混ざり合う場に、多様な視点を取り入れた公共施設の建設に繋がるような場にしたい。

ワークショップはテーブルを分けて少人数で意見交換をするので、意見を言いづらいという方も多いと思う。学生に潤滑油、進行役になってもらい、うまく会を進められるような工夫もしていきたい。

日時、会場については先ほど伝えた通り、6月30日(日)の午後に第1回を予定している。2回目は7月11日(日)の午後に予定している。土日の日中ということで候補を絞っていった時に、行事ごとや会場の都合などを踏まえたうえでこの日に設定した。総合センターでの開催を予定しているが、候補地の場所により、その場所の周辺が会場として使えるのであれば、そこでやることも考えている。立地候補場所を選定したうえで確定したい。

第2回の前に現地見学会を開催し、場所を見たうえでイメージを膨らませて意見を出し合うという機会を設けたい。

内容については、第1回、第2回それぞれにテーマを掲げている。第1回は、どちらかといえば広い視点で複合施設を考えるような企画ができたらと思う。今日の意見の中でも、将来10年先、20年先、50年先どんな町になっているのか、というのをイメージして複合施設を考えていく、その場所にもしかしたら別の施設があるかもしれない、というのを少しイメージしながら進めるというのは、大切かと思う。その複合施設がある町の未来をイメージして、どんな町になったらいいか、どんな複合施設がその町に出来たらいいかを話し合う機会にしたい。そのうえでコンセプトやキャッチフレーズを作ることで、皆さんのイメージを具体化したい。

2回目は複合施設のあるモノ・コトということで、今回建物のことを考えるワークショップであるが、建物の機能をこうしよう、この機能を設けよう、こういう空間があるといい、だけではなく、そこで何をしたい、こういうことができるのもっと使う、こういう運営でやっていけると維持できそうなど、コトについても触れながら語り合っていきたい。現地を見たうえで、複合施設にあるもの、あったらいいなと思う機能はもちろん、サービスや使い方も出し合いながら、それがなぜ必要なのかという理由まで掘り下げて話し合っていく場を作りたい。最後は複合施設を自分事に考えていけるように、ここでこんなことをしたい、こうやって関わっていきたいという宣言をするような企画も考えたい。

今後のスケジュールについては、5月17日から20日の間の住民説明会において、案内チラシをまず配布して周知をスタートしたい。その後すぐに町のホームページにも掲載し、6月の広報誌には住民ワークショップの案内を挟み込むことを考えている。締め切りは6月21日ということで、約1か月間の周知期間を設けて、参加状況によっては声掛けなどもさせてもらいながら、色々な方に集まってもらえればと思う。人数は30人程度が適切かと思うが、希望者が多ければ多い企画ができると思うので、あまり制限は設けずぜひ手を挙げてもらえるような企画ができればと思う。

(委員)

前回の会議で委員が言ったように、子どもたちの意見も聞いてみたいということが反映されると考えると、非常に大事なことかと思う。ファシリテーターの役割はすごく重要だと思うが、柴田先生が入ってくださること、子どもたちの意見を吸い上げるときに、年齢が近い年上の人があると良いと思うので、学生が入っていただけというのは有効かと思う。気になるのは30名という人数。子どもだけでなく多くの意見を吸い上げるという意味ではとても重要なので、住民意識もきっと反映されると思う。参加してみたいという方がどれだけいるのか。いろいろな意見も含めて、ここが一番山場になるのかと思う。人数にもよるが、非常に多かった場合はもう1回開催するなどできれば、より町民の意見を吸い上げるという意味ではいいかと思う。進行度合いなどもあると思うので、より意見を吸い上げるという意味では、私たちも耳を傾けていきたいと思った。

(委員)

学生は中学生以上ということだが、小学生の意見はどこかで聞けないかと思った。図書室

や総合センターは小学生も利用しているので、こうだったらいいなという純粋な意見がどこかで、学校に協力をもらいながらも得られれば。ワークショップはハードルが高いかもしれないので、アンケートでも良いと思う。子どもたちの生の声をどなたか聞いてくれれば、すごく良いと思う。

(委員)

施設を一番活用して下さると思うので、老人クラブにも意見を聞いてほしい。

(委員長)

ホームページやチラシとは別に、学校等への告知も可能か。それができれば中学生、高校生にもぜひ参加してもらいたい。小学生と大人のワークショップは少し難しいので、小学生でやるなら専用のワークショップを開いたほうが良いと思う。できれば企画したい。

(事務局)

鹿児島大学の学生については、6月上旬に一度現地入りをしてもらい、現在の勉強、建設予定地、周囲の状況について事前学習をした上でワークショップに臨んでもらうことを計画している。

(事務局)

集計結果を発表する。前に出ているとおり、①役場周辺が7点、②体育館周辺が27点、③国道ダイナム近くが2点、④国道セブンイレブン近くが9点であった。

町の検討委員会の優先順位としては、体育館周辺、国道セブンイレブン近く、役場周辺、国道ダイナム近くの順になる。

(委員長)

体育館周辺が一番高い点数で、第一候補として選んだ方が多かったという結果になった。以上の結果について疑義は無いか。

無いようなので、この順位で決定したい。

(委員長)

次回は6月5日(水)13:30に開催する。